

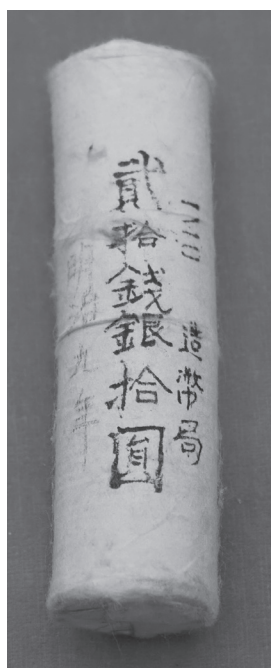
竜二十銭銀貨明治九年銘ロールの開封

ドクトル・マサ

今回、友人が二〇二〇年一〇月に入手した竜二十銭銀貨明治九年銘造幣局ロールを開封する機会があったのでご報告いたします。

最初、友人は入手して直ぐに開封しなかったようですがコロナの感染が収まり皆が集まってから開封した方が良いのではないかと説得しました。約一年半我慢してもらって今回、興味のある仲間が集まって開封してみました。

ロールの大きさは八三・七×二三・一ミリメートルでした（写真①）。外には造幣局明治九年と記載されておりました。約一五〇年も経過している品物なのでピンセットで慎重に包装紙を剥がしていききました。ただ紙が中に織り込まれているようで中々上手く剥がれませんでした。ロールには糊とかは使用されていないと考え少し強引に中身を傷つけないように開封しました。もちろん手袋を装着して慎重に作業を進めて行き



【写真①】

ました。

包装紙の原形です（写真②）。結構上手く剥がせたと思います。

やはり銀貨の一枚目と五〇枚目の表面は空気に触れていたのかトーンで覆われておりました。一枚目を取り出すと後は次々と眩いばかりの銀貨が現れました（写真③）。次にトレイの上に順番に並べていききました（写真④）。

中身は全て明治九年後期（トメ明・ハネ本）の菊紋面の桐葉四、五葉の脈が三本の多脈・長銭でした。後期自体は明治九年銘の七五%を占めているのでそれ程珍しい刻印ではありませんが…。

やや変色した銀貨が二枚見受けられました。が、その他は完璧な状態でした。何で変色した銀貨が真ん中にあつたのかは疑問ですが、その他はかなり状態が良かったので保存の状態がしっかりしていたのではと思われまます。

この五〇枚は、私が以前レクチャーしたネガフィルムシートを一枚挿入する方法で全てコインホルダーに入れて収納しました。

今回、この竜二十銭銀貨明治九年銘のロール出しが出現した事でこの明治九年銘の価格が下落するのを心配される方がいらつしやるかも知れませんが心配ご無用です。財務省金貨が三万二千枚とあれだけの枚数が出て来ても価格が下落しなかつた例を見てもこの位の枚数では体制に影響が全く無いでしょう。それとこの銀貨の所有者の方は放出するという事を殆どしない方で手元に置いておく事に意義を感じている人ですので…（笑）。

また竜二十銭銀貨では、かなり以前に明治三一年銘と明治三二年銘のロール出しが店頭に溢れていた事がありました。これも誰かがロール開封を行ったものと考えられます。今では殆ど見かけなくなりましたが…。

今までにロールの開封という場面に立ち会つた事は無く、ましてや造幣局の銀貨ロールという事で今後このような機会はまず訪れないだろうと思ひ今回はこのようなご報告をさせて頂いたいただきます。

約二〇年程前に旧円銀のロール出しがTICCの直前に現れて旧円銀の大ブームになった事がありました。この時は造幣局ロールではなく私製の和紙にくるまれたロールの状態で京都